

発芽させたお米のゆくえ

沖水小学校 五年 横山 瑛士

五年生の一学期、理科のじゅ業で、種子の発芽と養分についてイネを使った実験をしました。ぼくは、実験で残ったイネを持って帰りました。社会のじゅ業でお米の作り方を勉強したけれど、本当にこのイネからお米を作ることができるとかぎ間に思いました。できるなら、自分で発芽させたお米を食べてみたいと思いイネの発芽にちよう戦することを決めました。この計画は、家族に内しよで立て、自分の部屋でこつそり進めました。

一回目、発芽はしたけれど水かえが少なかったので、カビが生えてダメになったイネが多かったです。二回目、細めに観察し変化があったらすぐに水をかえるようにしました。このようにして発芽に成功しました。五センチくらいに成長させてから、お母さんに計画を発表しました。

「家で育てられるかな。」

と聞くと、お母さんは、おどろきながら

「家には花だんしかないから植えられないよ。」

と言いました。でもあきらめきれないぼくは、ばあちゃんの田んぼに

植えてくれるかもしれないと思いたのんでみました。

「良いよ。」

と連らくが来ました。

「よしっ。」

ぼくは、思わずつぶやきました。田植えの手伝いは、できなかつたので発芽したイネをあずけました。

六月七日、ばあちゃんから田植えが終わつたと報告がありました。なえが小さいので手で植えたこと、他のなえよりせが低いので水をかけたらぼくのなえは、おぼれていることを教えてくれました。夏休み、ばあちゃんの家に泊まりに行きました。水の管理に連いて行った時に、ドキドキしながらぼくのなえをさがすと無事に成長していてホツとしました。

秋には、毎年手伝っているいねかりといね落としがあります。収かくするお米の中に自分が発芽させたお米が一つぶでも入っていると、思うと手伝いも気合が入ります。どうやって新米を食べようかな、大好きな牛丼かな、やっぱりからあげかなと、すでに想像がふくらんでいます。そして、計画を成功させてくれたばあちゃんに伝えたいです。

「ありがとうございます。いただきます。」